

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	＊	＊	＊
	○	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・10月後半より急に気温が下がり、冬物衣料の動きが良くなっている。また、食品催事、ブティック、家具、家電が前年を上回り、店全体の売上を押し上げている。ふるさと納税返礼品の駆け込み受注もプラスとなっている。食品もギフト需要より自家需要が売上を伸ばしている。
	○	スーパー（副店長）	お客様の様子	・新しい首相になり、物価高騰を始め各種問題に対して積極的な取り組みがみられ、消費者も今後に期待している様子が景気にも表れている。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・近隣の工事需要があり、今月の売上は増えている。いつまで続くか分からない点が心配である。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車のモデルチェンジがあり、新車の受注は上向いてきている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3か月前の7月は例年、1年のなかでも繁忙期である。今月は7月に引けを取らず、宿泊客数が2%ほど増えている。また、客室単価は前年同月と比べても上がっており、前月比では5%ほど上昇している。景気は少し上向きになっている。
	○	タクシー（経営者）	来客数の動き	・イベント開催で、人の動きがはっきりと確認できる。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・客が全く街に出てこなくなっている。本当にどうなってしまふのかと、心配している。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・値上げのためか売上は微増で推移しているものの、販売点数が伸びていない。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・相変わらず必要な物だけを購入する状況が続いており、販売施策に呼応する動きが見られない。季節商材に関しては、電気代が安いわけではないものの、灯油価格の高騰により、エアコン購入が増えてきている。
	□	百貨店（店長）	来客数の動き	・集客に向けて、人気催事を開催する等で来客数を維持できている。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・既存店の売上は堅調なものの、来客数は微減となっている。買上点数と単価の上昇分でカバーしている状態である。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・前年比では売上は7%増加、来客数は12%減少となっている。近隣の大型商業施設開業の影響もあるのか、来客数は減っている。ただし、外販が順調で、売上は増えている。10月は市長選挙の開票会場から昼夜の弁当注文、病院から祭りでのおにぎり200個や敬老会の弁当注文など、いろいろと注文が重なり大変だった。11月上旬も大型施設でのコンサートスタッフ向けの弁当等、昼夜各100個ほどと注文が多く入っている。何とか乗り切りたい。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が減少しており、まとめ買いの傾向がある。買物頻度が下がっており、支出を抑えている印象である。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今年の夏は猛暑で、割と売上は良かった。今月はかなり寒くなり、売上は前年と同じ状況であるため、変わらない。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・パソコンの駆け込み需要があり、売上は前年を上回っているものの、来客数は横ばいである。
	□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・車検、一般整備は前年とほぼ同じで、良くも悪くもない。車両販売については、あらゆる物価高騰により、購入を控えると話す客が多い。
	□	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・冬タイヤが売れる時期だが、来客数は大幅な前年割れとなっている。
	□	その他専門店〔酒〕（店長）	お客様の様子	・前年と比べて売上自体はかなり伸びているものの、物価上昇が追い打ちを掛けている。客の様子をみていると、非常に高価な物を求める客と商材価格が上がった分、いつもより安い物を求める客の差が顕著である。

	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数は減ったまま戻らないが、値上げしてもそれほど変化がなくなってきた、利益を減らさずにやりくりできている。景気が良くなっているのかといわれると微妙だが、最悪という状況でもない。
	□	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ここ数か月、改善の方向に進んでいたが、年末や行楽シーズン前の小休止なのか、フリー客の動きが落ち着いている。元々、予約受注の動きは悪くなかったこともあり、減少幅は大きくないが、ここ数か月で比較するとかなり落ち着いている。
	□	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・受注状況等は横ばいである。行楽シーズンを迎え繁忙期に入り、客の旅行意識も高まってきており、旅行相談も増加傾向にあるものの、即決での申込みや予約が少ない。各種の値上がりが必要とみられる。
	□	タクシー運転手	販売量の動き	・前月と比べて若干ではあるものの、売上が伸びている。内訳をみると、寒くなってきた20日頃から近距離の客が増えている。また、障がい者割引の利用客も増えている。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・ある程度、予算に対して獲得は安定している状況だが、あくまで最低限の水準で、大幅な売上増加には至っていない。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・上向く兆しはないが、政権が変わり物価高対策で消費が増加することを期待している。
	□	観光名所（職員）	来客数の動き	・観光地は天候に左右されることが多々ある。夏までは比較的好調だった来客数は、このところ、連休や週末の悪天候により、個人客の客足が鈍くなっている。
	□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・秋は行楽の季節で屋外レジャーが盛んになり、通常だと売上が低い月になるが、週末に天候が崩れた日が多かったこともあり、売上は落ちずに集客できている。また、このところ、夜間も若者を中心に集客できている。
	▲	商店街（代表者）	それ以外	・閉店を考えている人が意外と多く、結果として街の魅力が薄くなっていく。
	▲	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・買上点数や客単価の低迷により、やや悪くなっている。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・地方のコンビニでは、夕方以降の来客数減少の動きが顕著である。
	▲	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は前年並みに推移しているが、若干低い状態が続いているため、やや厳しい。
	▲	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年の夏は猛暑だったため、比較的涼しい当地への旅行者が例年よりも多かった。秋になって前年より来客数が減っている。気温が下がってきたため、紅葉前の当地へ行く魅力がなかったことや大阪・関西万博に客が流れたからではないかと考える。
	▲	遊園地（職員）	来客数の動き	・今月は3連休もあり、多くのイベントを実施したが、降雨が多かったことや台風接近に伴う悪天候が影響し、大きな伸びはみられなかった。
	▲	ゴルフ場（副支配人）	単価の動き	・以前は、プレー代は上げられなくても、食事代等で客単価を上げることができていたが、最近は、食事も費用が掛からない物を選ぶ客が増えている。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高でやや悪くなっている。
	×	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	競争相手の様子	・郊外に大型施設ができたため、来店客が少ない。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・前月に引き続き、折込出稿が前年比でプラス7%で推移している。なかでも食品スーパー、衣料品、家電量販店等が大きく前年を超えている。
	□	食料品製造業（製造担当）	取引先の様子	・販売量は2割ほど落ち込んだ状態で推移している。
	□	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・諸物価の上昇の影響や一時の新酒ブームに陰りがみえてきて、苦戦を強いられている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕事量に大きな増減はないが、材料の入荷や取引先からの受注などに若干鈍さがみられる。

	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量は順調に増えてきており、単価もそれにつれて変化している。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・企業の業況感は、製造業ではマイナス水準のなかでの改善、非製造業はやや改善してプラス水準を維持している。全体では大きな変化はみられない。
	▲	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大口受注対応が済み、例年の受注対応となっている。夏休みのワークショップ予約も落ち着いたため、予約件数が減少している。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	競争相手の様子	・建築業界では新築工事が少ないため、物の流通が少なくなっている。
	▲	その他製造業 〔宝石・貴金属〕（経営者）	取引先の様子	・金地金、プラチナ地金共に、年当初と比較しても50%を超える高騰となっている。その影響もあり、9月、10月はジュエリーの繁忙期だが、金製品は全てが高いというイメージが生まれている。小売店では商材を見る前から客の買い控えが進んでいると実感するという話を出される。そのような店に仕入意欲はない。
	×	*	*	*
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・人材不足が続いているなか、大型総合スーパーの開店に伴い、オープン時だけ破格の時給が用意されているため、多くの人が流れてしまい、人材が集まらない状況となっている。スーパー自体、どの程度各店舗が持ちこたえられるか心配だが、要員確保の難しい状況は続く。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比で、月により増減はあるものの大きな変化はみられない。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・高齢者層を中心に求職活動を活発化させる傾向がうかがえるものの、原材料や光熱費の高止まり等から、就職活動は長期化している。人手不足のなかでも高齢者層の雇用は進んでいない。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当所管内の9月の有効求人倍率は1.28倍で、前年同月比で0.13ポイント下降している。月間有効求人倍率が前年同月を下回るのは17か月連続である。
	×	—	—	—